

F-REDD Newsletter

Sustainable Forest Management and REDD+ Support Project

Nov 2015 - Oct 2020

持続可能な森林管理及びREDD+支援プロジェクト(F-REDD)

本プロジェクトの目的はREDD+に係る戦略策定、実施体制構築、実施のコーディネーションの支援と森林資源情報の整備などに係る能力の強化をはかり、それによってラオスの持続的な森林管理の促進に寄与することです。農林省森林局(M AF-DOF)を実施機関として協力しています。

FCPF炭素基金への申請が採択されました

前号に続けての報告です*1。F-REDDはラオスの森林炭素パートナーシップ(FCPF)炭素基金への案件計画書作成を支援してきましたが、このたび、第18回会合(6月、パリ)でラオスの申請案件が審査、採択されました。これにより、2019年～2025にかけて北部6県で実施するREDD+活動の成果を炭素クレジットとして販売する道筋が、いよいよ拓けることとなります。

5月下旬に申請書最終案を提出の後、FCPFによる技術審査報告書が作成されています*2。今回の会合は申請案件の発表と質疑、そして採否が最終決定される重要なもので、ラオスは農林省副大臣を筆頭とした代表団で臨みました。

会合に先立ち、F-REDDは入念な対処方針やプレゼンテーションの準備に協力し、会合期間中もラオス代表団の交渉を遠隔で支援しました。採択を受けて、今後はFCPFとの合意締結交渉へと進むと同時に、申請案件の実施が本格化することとなります。F-REDDはラオスが最大限の成果を獲得できるように、国レベル及び対象県であるルアンブラバンならびにウドムサイの両県において、さらなる支援を行っていく予定です。

*1 季刊第4号、9号、他。

*2 これらのドキュメントは<https://www.forestcarbonpartnership.org>から入手可能。



パリで開催されたFCPF炭素基金会合
第18回会合に参加したラオス代表団

ルアンブラバン県の保護林境界を確定する調査が行われました

F-REDDはルアンブラバン県の保護林管理強化を目的として、県内に位置するプーポン・プーパトゥン・タットクアンシー保護林におけるパイロット活動を支援しており(季刊第8号参照)、5月には保護林境界を確定する調査が実施されました。

同保護林では既存の境界が周辺の村落に正しく認識されていない、場所によっては土地利用や地形等の実態に即していないという問題があり、保護林の位置が曖昧なままでは、保護林管理を実施することが困難です。そこで、既存の保護林境界を村落住民と確認・修正するコンサルテーション会合を保護林周辺の各村落において開催しました。また、修正部分に対しては現地踏査を行い、地図上に記録するためのGPS座標を取得しました。

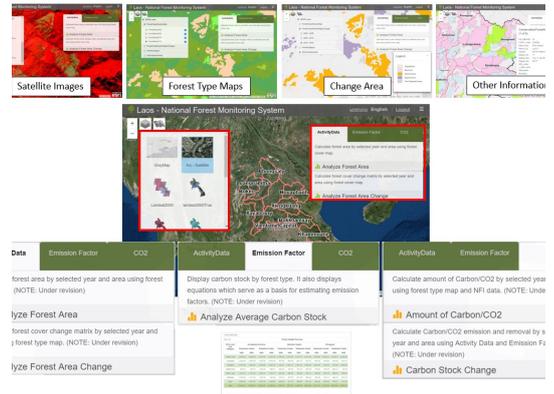
村落にて合意された保護林境界は村落ごとに県農林事務所との合意書という形で確認されました。さらに、中央レベルの森林官が調査に参加することによって調査結果はスムーズに中央レベルにも報告されました。今後、正式な手続きを経て、公式の保護林境界として承認される見込みです。



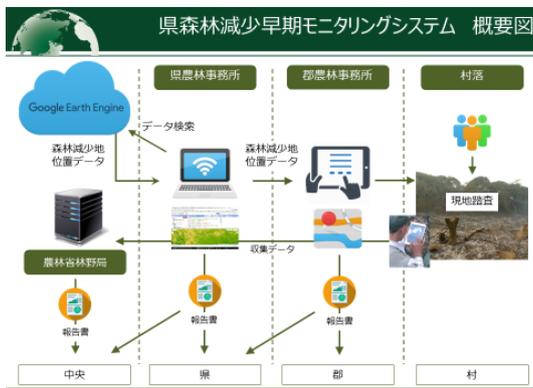
保護林境界の位置を確認し、
GPSで取得した座標データを記録した。

国家森林モニタリングシステムと 県森林減少早期モニタリングシステムの開発が進んでいます

国連気候変動枠組み条約下でREDD+に参加する国は、国家森林モニタリングシステム (National Forest Monitoring System: NFMS) の構築・活用によりREDD+活動に基づく温室効果ガスの排出削減・吸収増加量を的確かつ透明性をもって計測し、報告することが求められています。F-REDDがラオスで構築を支援しているNFMSには、既に衛星データや森林区分図、森林変化図、国家森林インベントリ結果等の情報が格納されました。また、それらのデータを利用して、全国・県の森林区分の面積/面積変化やCO2排出・吸収量および変化の計算をするための機能も既に実装されています。現在は透明性の確保を目的としてNFMSの一般公開に向けた改修を推進中で、今後は国レベルを含むラオス国内すべてのREDD+プロジェクト/プログラムの登録や、排出削減レジストリの機能を追加し、REDD+に係るデータの一元管理が可能な



ラオスの国家森林モニタリングシステム (NFMS) の概要



県森林減少早期モニタリングシステムの概念図

システムへ段階的な拡張を目指します。

また、2018年からは、「県森林減少早期モニタリングシステム」の開発と試行を支援しています。ラオスでは、森林から農地への土地利用転換が最大の森林減少要因とされており、焼畑及び商品作物栽培の森林への拡大をモニタリングし、必要な措置を取る必要があります。しかしながら、不明瞭な森林区分やモニタリング体制・実施方法の不備から、十分に機能していないのが現状です。そこで、衛星情報によって森林減少を早期に発見し、森林官が現地パトロールを通じて現状確認や対策といった必要な措置が可能となる「県森林減少早期モニタリングシステム」を開発し、試験導入する予定です。本モニタリングで収集された森林減少地の情報はNFMSのデータベースにも蓄積され、様々な報告にも活用される予定です。

成果毎の主な活動

成果1：中央政府の森林セクター支援

- ◆ 森林法改正案作成

成果2：REDD+実施による排出削減・吸収増加量の測定支援

- ◆ UNFCCCによる森林参照排出レベル(FREL)レポートへの技術審査対応および改訂版FRELレポート提出
- ◆ NFMSおよび炭素RegistryのWeb Portalの試験公開、コンテンツ改修および機能追加に関するロードマップ作成

成果3：国レベルのREDD+支援

- ◆ FCPF炭素基金向け案件計画書（最終案）提出および技術審査、最終審査対応

成果4：ルアンプラバン県のREDD+準備支援

- ◆ PRAP優先政策パイロット保護林管理計画策定のための保護林境界確定調査

共通の支援

- ◆ DOF/FIPDが定める森林定義及び土地分類の公式化

コンタクト

プロジェクトオフィス
Kouvieng Street, Sisaket Village,
Chanthabouli District,
Vientiane Capital, Laos
Tel & Fax: 021(22)2536
プロジェクトHP
<http://www.jica.go.jp/project/laos/018/index.html>

次期四半期のイベント

Jul.
国家REDD+タスクフォース会合

Aug.
第6回REL/MRV技術作業部会会合



農林省
Ministry of Agriculture
and Forestry (MAF)



独立行政法人
国際協力機構